

G空間サミット2021

開催趣旨説明

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

浦川 豪



一般社団法人 G-mottyの設立

“地域愛”を育むことを手助けし、“地域らしさ”をアピールすることを後押しする。

地理空間情報 × ICT × 地域社会の絆
＝無限大の地域力

“水”の人 ↔ G-motty ↔ “風”の人

その土地に寄り添い、種に水をやり続ける存在。中間支援的存在。

その土地に「種」を運ぶ、刺激を与える存在。



“土”の人

そこに居続ける存在。
しっかり根を張り、活動し続ける存在。



令和2年7月豪雨



記録的な大雨で冠水した熊本県人吉市街＝4日午後 [時事通信ヘリコプターより]

ウエザーニュース

<https://weathernews.jp/s/topics/202007/090185/>

気象庁

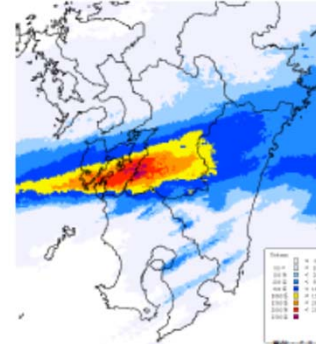
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2020/20200811/jyun_sok_uji20200703-0731.pdf

2. 危険度分布

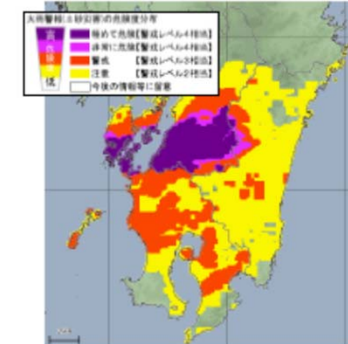
7月4日5時

(熊本県、鹿児島県に大雨特別警報を発表した直後)

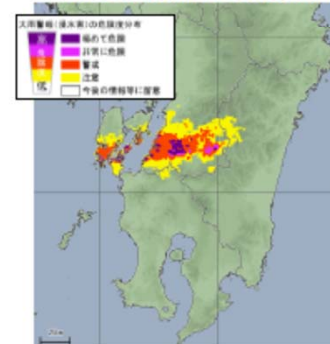
3時間降水量(解析雨量)



大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



洪水警報の危険度分布



ハザード(降雨)

1. 台風にともなう集中豪雨
 2. 長雨(数時間に集中した降雨が伴う長雨)
 3. 線状降水帯による雨量強度が高い集中豪雨
 4. 停滞前線による数日間に渡る降雨
 5. 局地的大雨
- ハザードも様々なパターン
 - 特に線状降水帯は、近年、毎年発生している
 - 同一ハザードでも被害の様相は異なる

自分たちが暮らす地域で発生する災害を
想像 (Imagination) できなければ、
具体的な防災・減災対策を
創造 (Creation) することはできません。

暮らす地域のことを知り(関心を持ち)、
そこで起こる状況(被害等)を想像し、
個別の(カスタマイズした)防災・減災対策を
おこなうことが重要！







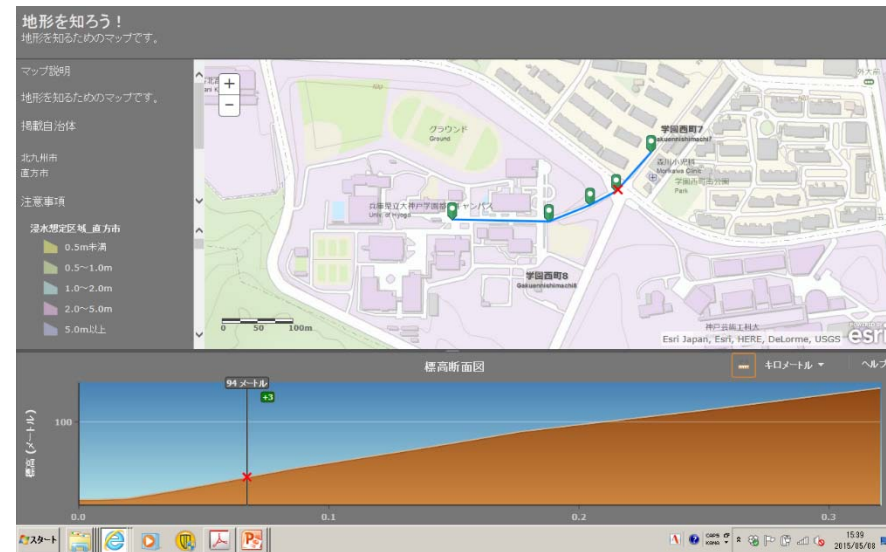
地形と地勢、風土と歴史

- 地形：地表の高低や起伏など地表面の状態
- 地勢：土地の起伏、高低、山、川、平野などの立地、海との近接等土地全体
- 風土：土地の気候や気象、地形、地質、景色・景観などの総称

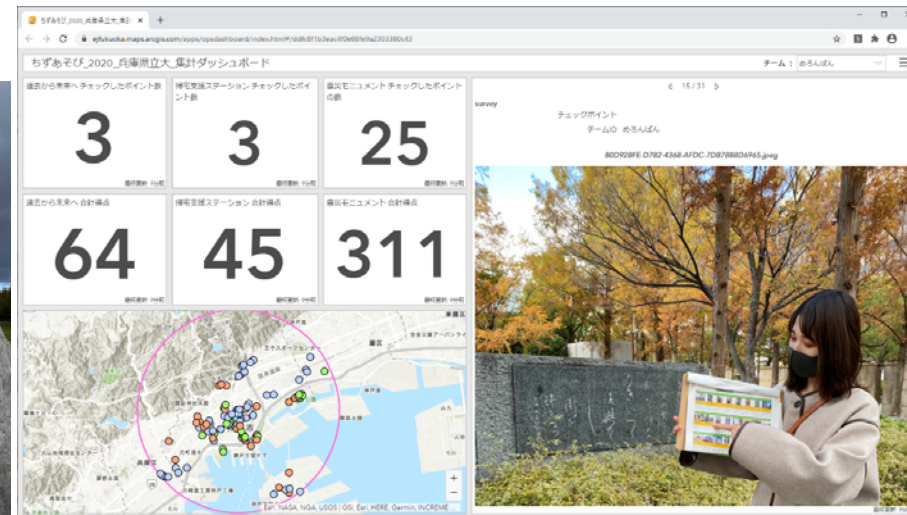
そして歴史的な出来事は、地形、地勢、風土と密接に関係していることが多い。

暮らしている地域の特徴を知る

- 地形を知ろう！



- ちずあそび



防災教育

1. 恐怖、脅しの情報による教育
2. 防災知識を得る教育
3. 現場感を持ち、わがこと意識になり、姿勢を変える、継続させるための教育

防災教育

1. 恐怖喚起コミュニケーション
2. 教示コミュニケーション
3. 共感コミュニケーション

内発的、自発的行動が大いに期待できる。

被害抑止対策の工夫



土手の花見の逸話

日本の北の地方では、冬に川の土手は降霜や氷結の作用によって緩んでしまう(昔ながらの土の堤防の場合)。

梅雨の季節がやってくると土手が弱体化したところに増水が重なり、土手の決壊につながりかねない。このことを防止するための知恵が「土手の花見」である。梅雨前の季節に大勢の人間による踏み固めという形で、ごく自然に土手の強度を増すという、人々が楽しみながら防災対策に加わっているというアイデア。

さらに、多くの人々が集まれば、補修を必要とする箇所を発見する機会が増える。

時間	講演者	内容
13:00 ~ 13:05	北九州市 総務局情報政策部 部長 神野 洋一氏	開催挨拶
13:05 ~ 13:25	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 浦川 豪氏	開催趣旨説明
13:25 ~ 13:55	株式会社イノP (農家ハンター) 井上 拓哉氏	基調講演 TV 番組「情熱大陸」でも取り上げられた「ハイテクを駆使してイノシシ被害に立ち向かう農家たち」の姿を、そのリーダーに赤々と話っていた できます。
14:00 ~ 14:30	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 森永 達男氏	基調講演 地図や地名から読み解く地域の歴史や特性 (仮)
14:35 ~ 15:05	一般社団法人 Cats ジャパン 代表 下岡 隆治氏	基調講演 「冒険観光 ちずあそび」 コロナ禍における GIS と健康と地域貢献について
15:15 ~ 15:35	会津若松市 伊藤 文徳氏 (リモート講演)	自治体活用事例 世帯主ポイント作成の窓口運用
15:40 ~ 16:00	菊田町	自治体活用事例 行革甲子園グランプリ II 水道業務における GIS の活用
16:05 ~ 16:25	東日本電信電話株式会社 ビジネスイノベーション本部 課長 伴野 淳志氏 (リモート講演)	災害時活用事例 様々な災害現場で、罹災証明の発行や生活再建支援業務の実務を通して見えてきた、課題や問題点について
16:30 ~ 16:50	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 研究員 折橋 祐希氏	災害時活用事例 生活再建支援業務における地理空間情報の活用について
16:55 ~ 17:25	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 浦川 豪氏 研究員 折橋 祐希氏 自治体 宮崎市・丹波市・会津若松市 (リモート参加) 北九州市・直方市・菊田町 東日本電信電話株式会社 ビジネスイノベーション本部 課長 伴野 淳志氏 (リモート参加)	パネルディスカッション 毎年のように発生する線状降水帯による災害は、いつどこで発生しても不思議ではない状況となっており、これらに対する備えは、自治体にとってまさに喫緊の課題と言えます。 については、産学の専門家による知見や実際の体験をもとに、その基盤となる情報システムの利活用における問題点や課題を、各地の自治体職員を交えて議論を行うとともに、既に GIS プラットフォームを保有している我々として、事前に行うことは何かなどを考えていきたいと思います。
17:25 ~ 17:30	一般社団法人 G-motty	閉会挨拶

● プログラムは都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

ありがとうございました!

浦川 豪

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
准教授、博士(工学)

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館4階

Tel: +81-78-271-3293

E-mail: g_urakawa@drg.u-hyogo.ac.jp

